

迫力ある歌声を披露した米ハーバード大、京大のグリークラブのOBによるコンサート—高松市玉藻町、レクザムホール



ハーバード大×京大

グリークラブOB 高松で演奏会

国境超えた歌声披露

米ハーバード大と京都大のグリークラブ(男声合唱団)のOBによるジョイントコンサートが6日、高松市玉藻町のレクザムホール(県民ホール)大ホールで開かれた。両大のOBは約1500人の聴衆を前に、国境を超えた重厚なハーモニーを披露した。

ハーバード大のグリークラブは1858(安政5)

年創設。1960年代に日本で行った演奏会が、京大のグリークラブの創設メンバーに大きな影響を与えたという。両大のOBは90年春に初のジョイントコンサートを東京と大阪で開催。以来、定期的に日米を相互訪問して京都やホノルル、長崎などでコンサートを開

いてきた。

今回は合唱グループの活動が盛んな高松市を会場に選び、県民ホールの開館30周年も兼ねて、両大OB会と同ホールの3者で実行委を組織。当初、コンサートは小ホールで行われる予定だったが、観覧希望者が相次いだため、大ホールに会場を変更した。コンサートには両大のO

B合わせて約80人が出演。京大はドビュッシューの「美しき夕べ」「海は伽藍よりも」、ハーバード大はアメリカ古謡などを披露した。最後の合同演奏では、県民にもおなじみの民謡「金毘羅船々」を合唱用にアレンジした曲のほか、靈歌「時には母のない子のように」などを歌い上げ、力強きも優しい歌声で観客を包み込んだ。

また、高松市を拠点に活動する女声合唱団「フラウエンコール・かがわ」も賛助出演し、ステージに花を添えた。